

欧州経済を伝える



欧州 PFAS 規制の行方と産業界の対応動向

— 主要企業・業界団体・サプライチェーン変化の分析 —

2026 年 6 月

FBC Business Consulting GmbH

Germany

<http://www.fbc.de>

目次

エグゼクティブ・サマリー	4
略語集 (Glossary)	5
第 1 章 PFAS 問題の背景と欧州規制強化の経緯	7
1-1 PFAS とは何か	7
1-2 PFAS 問題はなぜ拡大したのか	8
1-3 個別規制から群規制への転換	8
1-4 欧州が規制を主導する背景	9
1-5 本レポートの視点	10
第 2 章 欧州 PFAS 規制の最新動向	10
2-1 REACH PFAS 制限案の概要	10
2-2 欧州化学品庁における審議状況	11
2-3 現在の主要論点	12
2-4 産業分野別の審議動向	13
2-5 今後の制度見通し	14
第 3 章 産業別影響分析	15
3-1 PFAS 規制が産業界へ与える影響の全体像	15
3-2 主要産業における影響分析	16
3-3 エネルギー・化学産業への影響	18
3-4 代替困難用途と今後の焦点	19
第 4 章 欧州産業界の対応動向と主要企業・業界団体の戦略分析	20
4-1 欧州産業界の基本認識	20
4-2 業界団体の主張と政策提言	21
4-3 化学・素材メーカーの取り組み	23
4-4 自動車・自動車部品メーカーの取り組み	25
4-5 半導体・電子関連企業の取り組み	27
4-6 医療機器・ヘルスケア関連企業の取り組み	29
4-7 顧客要求の変化と企業対応	30
4-8 欧州企業対応の類型化	31

第 5 章 代替技術・代替材料の開発動向.....	32
5-1 PFAS 代替開発の現状.....	32
5-2 主要代替材料の開発動向.....	33
5-3 重点分野における代替技術.....	34
5-4 技術的課題と今後の方向性	35
第 6 章 サプライチェーンへの影響.....	36
6-1 PFAS 規制がもたらすサプライチェーン変革.....	36
6-2 顧客企業の調達方針の変化.....	37
6-3 欧州製造業の競争環境への影響.....	38
6-4 サプライチェーン再編と新たな事業機会.....	39
6-5 まとめ	40
第 7 章 欧州企業の対応から見える今後の方向性.....	40
7-1 欧州企業の対応から見える共通傾向.....	40
7-2 今後注目される制度・市場動向.....	41
7-3 サプライチェーン管理の新たな方向性.....	42
7-4 本調査の総括.....	43
主な参考資料・出所	44

エグゼクティブ・サマリー

欧州では PFAS（Per- and Polyfluoroalkyl Substances／有機フッ素化合物）を対象とする包括的な規制強化が進められている。従来は PFOA（Perfluorooctanoic Acid／ペルフルオロオクタン酸）や PFOS（Perfluorooctane Sulfonic Acid／ペルフルオロオクタンスルホン酸）など個別物質ごとの規制が中心であったが、現在は REACH（Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals／EU 化学品登録・評価・認可・制限制度）に基づく制限案について ECHA の科学的評価が最終段階を迎えており、欧州委員会による立法提案に向けた手続きが進んでいる。

当初は「PFAS 全面禁止」との見方もあったが、2026 年 3 月のリスク評価委員会（RAC）による最終オピニオン採択を経て、現在の議論は、適用除外の維持（段階的移行）を模索する動きと、SEAC 最終オピニオンおよび欧州委員会による立法提案の内容次第では規制が激甚化するリスク（猶予の縮小・条件厳格化）に備える実務的な防衛策の二正面へと移っている。

欧州産業界は環境負荷低減の必要性を認める一方、用途や物質特性を考慮した規制設計を求めている。VDA（Verband der Automobilindustrie／ドイツ自動車工業会）、CLEPA（European Association of Automotive Suppliers／欧州自動車部品工業会）、SEMI（Semiconductor Equipment and Materials International／国際半導体製造装置材料協会）、MedTech Europe（European Medical Technology Industry Association／欧州医療機器工業会）などは、代替困難用途への配慮や十分な移行期間の必要性を主張している。

企業レベルでは、化学・素材メーカーが高機能材料の供給継続と環境負荷低減を進める一方、自動車、半導体、医療機器業界では PFAS 使用実態の把握や代替技術の評価が進んでいる。また、PFAS 規制への対応は研究開発部門だけでなく、調達、品質保証、法務、サステナビリティ部門を含む全社的な課題へ発展している。

本調査で確認された最大の変化は、PFAS 規制が単なる化学物質管理の問題から、製品設計、調達戦略、サプライチェーン管理に関わる経営課題へ発展している点である。顧客企業は PFAS フリー製品の有無だけでなく、使用箇所、代替計画、供給継続性に関する情報提供を求め始めており、企業には従来以上の説明責任が求められている。

総じて見ると、欧州企業の主流的対応は「全面代替」ではなく、「用途別評価」「代替技術開発」「情報管理強化」を組み合わせた段階的移行である。PFAS 規制は今後も長期的なテーマとして継続するとみられ、規制内容だけでなく、産業界の対応、顧客要求の変化、代替技術の進展を総合的に把握することが重要になる。